

## 僕のブーニー

渡邊 佑わたなべ ゆう

ブーニーとは、僕の母方の祖母の事である。何故そんな呼び方をするのかというと、母の弟の奥さんがルーミアア人で、その子供達つまり僕の従兄弟がそう呼んでいたからだ。ルーミアア語で祖母は、ブーニーカーというそうだ。今では皆が祖母をブーニーと呼んでいる。

ブーニーの一番の趣味は、植物を育てる事。朝起きるとすぐ庭に出て、水あげをしながら植物を観察する。僕はその手伝いをするのが大好きだ。植物の事をよく知れるし、何より色々な話をブーニーが聞いてくれるから楽しかった。僕がつまらないギャグを言っても、ブーニーはよく笑ってくれる。たまに真剣な話をすることもある。野球の試合でエラーをしてしまった話をした時は、失敗は宝だよ。次にどうしたらエラーをしなにか考えよう。だから上手になるんだよ。失敗を沢山経験すれば、その分沢山成功するんだよって言ってくれた。そのお陰で僕は、失敗をおそれないで、強い打球を受ける挑戦をする様になった。僕と考え方が違う友達の話をした時も、植物もみんな色や形が違うでしょう。だからきれいなんだよ。人間だって、みんな違うから面白いんだよ。自分の考えを自信を持って言えるって事はすごい事なんだよ。僕はそれを聞いて、学校の授業中や休み時間に、自分の意見をはっきりと言える様になった。

ブーニーは、いつもありのままの僕を受け入れてくれて、誠実

に、前向きな話をしてくれる。僕にとっては神様みたいな存在。だからブーニーと一緒に居ると、いつも安心できるし、明日からまた勉強や野球を頑張つてやっつていこうという気持ちになる。

いつも僕の事を大事な存在だと感じさせてくれてありがとう。いつも僕と真剣に向き合ってくれてありがとう。

僕の事を、いつも全身全霊で見守ってくれているブーニーへの感謝の気持ちは心の中に沢山あるけれど、言葉で言うのは、照れくさいなあと思っていた。でもブーニーへの僕の素直な気持ちや伝えたいと思つたのはあるきつかけがあった。お盆に入る前、仏だんの掃除を手伝っていたら、祖父宛の手紙が沢山引き出しにしまつてあるのを見つけた。

「どうして、じいちゃん死んじゃつたのに、手紙を書いているの？」

ブーニーに聞いてみた。

「嬉しい事があつた時、じいちゃんにも知らせてあげたいんだよ。そうすれば天国でも一緒に喜んでくれるでしょう。じいちゃんもきつと佑君の事、応援してくれているよ。」

今でもブーニーは祖父への感謝の気持ちを忘れずに持っている。美味しいものがあるとすぐじいちゃんにもあげようねって言ったりしている。僕はじいちゃんには感謝の気持ちを伝えられなかった。でもブーニーには伝えたい。いつもいつも、本当にありがとう。